

# グループ学習の効果をあげるためのグループ作り

## A Group Formation Method for Increasing the Effectiveness of Group Learning

鷲 尾 敦

Atsushi Washio

### (要約)

学習者が主体的な学びを実践する授業方法としてグループ学習に注目している。平成22年にグループ学習についての大学生調査をするとともに、グループ学習の効果的な運営を検討するための比較授業を行った。グループメンバーの決め方やグループ内の役割、グループ形成を意識したグループ活動を取り入れてグループ学習を進めた。そのような配慮をしていないグループ学習に比べ、学生の意識が向上し、学習のテーマを掘り下げた学習状況が見られた。

### (キーワード)

グループ学習、グループ形成、役割分担

## 1. はじめに

学習者が主体的な学びを実践する授業は、知識が一方向的に伝えられる従来型の講義スタイルではなかなか難しく、意欲のある教員は授業に工夫を凝らし、学生の主体性を引き出そうと努力している。その方法の一つにグループ学習がある。グループ学習によって、学生同士の関わり合いの中から、学生の主体性や気づきが起こり、テーマへの興味が芽生え、活動への意欲の高まり、自ら学習を進める学習姿勢が生じる。その成果を他者や他のグループに発表したり、発表を聞いたりすることで学習を振り返り、テーマに関する知識を深めて、学習終了後の達成感とその分野への興味関心が高まり、次なる学習につながっていく。このような学習成果を得られる学生参加型の授業としてグループ学習が実践されている。

しかし、そのグループ学習も自律した学びにすぐつながるわけではない。筆者らが行ったグループ学習を中心とした「学習支援スキル」の育成を目指した教員研修では、学習者が主体的に関わり効果的に学習活動を行なうために、グループ活動をファシリテートしていくことの重要性を確認した<sup>1~5</sup>。そのため研究チームでは、学生がグループ学習をファシリテートしながら個々の学生が主体的に学習を進め学習成果を高める教育プログラムの開発研究を進めている<sup>6</sup>。

今回の報告は、グループ学習の効果的な運営を検討するために平成22年度に行った比較授業実践の研究報告である。その授業の際、受講学生に対し大学でグループ学習をどのように受けてきたかを調査した<sup>7,8</sup>。その調査からグループ学習について改めて明らかになったことがある。グループ学習で身に付いたと学生が感じるのは学習内容よりも学習技法であり、学ぶ内容を深めさせる工夫が必要であることである。また、次のような問題ケースがあることがわかった。一つは、学習者の活動内容や実践に対する教員の指導や評価がない、同じ教員の授業が別授業であっても同じように感じられる、教員の熱意が感じられないなど、教員の指導の在り方に課題があるケースがあった。二つ目は、調べ・まとめ・発

表という進め方がパターン化し主体性を引き出す授業という意味では形骸化しているような授業の進め方に問題のあるケースがあった。三つ目は、毎回グループ内の役割が同じであったり、特定のメンバーにグループ活動が引きずられたり、メンバー間に活動に対する温度差があったりするなど、グループの在り方についても課題があった。そして、四つ目は、グループ成果をひとくくりにして、グループ内での個々のメンバーの学習活動が評価されないという成績評価の在り方が指摘された。

以上から、主体的な学習活動に発展するためには、グループ学習を実施するだけではなく、グループ学習をいかにコーディネートするかが求められていると言える。私たちの研究グループでは、グループ学習でのファシリテーションの重要性に着目しており、それとも符合したと言える。

一方、西之園、望月らは、グループを一つの目標をもったチームとして、そのチームが一つの目標に向かって個々のメンバーが役割を持って学習を進めていくチーム学習の効果について検証している<sup>9, 10</sup>。そして、「課題遂行型の学習では、グループ学習というよりもプロジェクト・チームという概念の方が協力体制を形成するのに有効である」という授業設計者の経験則の命題の評価をした。そこでの検討した内容が具体的な教材や授業として進められている<sup>11, 12</sup>。

今回は、グループ学習をコーディネートする指針を得るため、グループメンバーの決め方やグループ内の役割、グループ形成を意識したグループ活動を取り入れてグループ学習を進め、そのような配慮をしていないグループ学習との比較調査をした。

## 2. グループ学習の実践授業

### 2.1 授業概要

研究対象の授業である「教育の方法と技術」は、教職科目の教育課程及び指導法に関する科目（情報機器及び教材の活用を含む）であり、22年の夏の集中講義として2クラスで実施した。2クラスともに3日間で、3日目は約20日後に実施した。従来型のグループ学習は初日の課題1として、今回試行するグループ学習は課題2として取り組ませた。両課題では、グループ編成を変えている。調査のため、授業開始時（事前調査）、課題1終了後、課題2終了後（授業終了時）にアンケートを実施した。授業スケジュールを表1に示す。

表1 授業スケジュール

	1日目	2日目	3日目
1	授業概要、グループワーク グループワークの役割、グループワークの方法	<課題1> 課題説明、グループワークの役割、グループワークの方法	グループワークの役割、グループワークの方法、教材制作
2	<課題2> グループワークの役割、グループワークの方法、教材制作	グループワークの役割、グループワークの方法、教材制作	教材制作、発表
3	グループワークの役割、グループワークの方法、教材制作	グループワークの役割、グループワークの方法、教材制作	発表練習、発表
4	グループワークの役割、グループワークの方法、教材制作	グループワークの役割、グループワークの方法、教材制作	発表練習
5	グループワークの役割、グループワークの方法、教材制作	グループワークの役割、グループワークの方法、教材制作	発表練習、発表、アンケート

#### (1) 授業のねらい

授業のねらいは大きく三つある。一つは「二種類のグループ学習を体験し、グループ学習の在り方やグループ学習のための学習支援スキルを学び身につけること」、二つ目に「インターネットの活用、教材制作の方法、データの取り扱い方、プレゼン技法、評価方法などの実践的な教育方法を、課題を進めながら学ぶこと」、そして、三つ目に「グループ学習を通じて、レポート、グループワーク、発表、評

価、ワークシートなど様々な教育活動の場を体験しその方法を身につけること」がねらいである。

## (2) 対象学生

対象学生は、4年制大学の児童教育学科幼保コース4年生で、平成22年夏休みの集中講義で実施した。各クラスの実施日、人数、グループ数は、次の通りである。

Aクラス	7/30,8/4,25	40名	8グループ
Bクラス	8/5,6,26	43名	8グループ

## 2.2 実践課題とグループ学習の条件

効果的なグループ学習を目指し、メンバー、役割、グループ形成を意識したグループ学習の効果について検証するために、それらを意識しない実践(課題1)と、意識した実践(課題2)を行った。実践者は同じであるが、実践内容、実践をする学習段階(時期)が異なっている。

大きな違いは、グループメンバーの選び方、グループ内役割を意識するかどうか、実質的なグループとして形成していくための活動を入れるかどうか、である。両者の実践の違いを表2に整理する。

### (1) 課題1 一般的なグループ学習(メンバー、役割、グループ形成について意識のない実践)

集中講義の初日の課題1は、「幼児教育とメディア」という大きなテーマの下で、下位の詳細なグループテーマをグループ討議で検討し、話し合いに基づいて調査をし、プレゼン資料にまとめ、グループ発表をするものである。この実践では、通常とグループメンバーが異なるように出席順の剰余でグループ分けをした。役割については全く言及せず、またグループ作りにつながるアイスブレイクやその他パ

表2 実践の比較

	課題1	課題2
課題テーマ	幼児教育とメディア	電子紙芝居教材制作
内容	テーマについてグループで調査、意見交換をし資料にまとめ発表	幼稚園で活用できる電子紙芝居教材制作と模擬授業
グループ決め	出席順(剰余)指定 いつもと違うメンバー意識	役割希望、役割経験、コミュニケーションタイプ調査結果に基づき、それぞれがばらばらになるよう指定
役割決め	役割指定なし (言及せず、自然発生)	リーダー、ファシリテータ、記録、情報技術、学習報告、進捗管理
指導内容	ブレインストーミング、KJ法、パワーポイントによるプレゼン資料作り	制作の流れ、パワーポイントによる制作方法、素材作り(絵、音)、評価方法
学生のグループ活動	グループディスカッション(テーマ、進め方)、調査、資料作成、プレゼン発表	グループディスカッション(テーマ、構想、企画書)、キャラクタ設計、シナリオ作成、評価表作成、制作、模擬授業準備、相互評価
時間数	初日4コマ	2日目、3日目 9コマ
メンバー数	5人~6人(8グループ) ×2クラス	5人~6人(8グループ)×2 クラス

フォーマンスはせず、グループ分けをした後、すぐに課題に取り組ませた。調査する担当箇所や発表者などの役割は各グループの話し合いの中で作られていった。

### (2) 課題2 試行したグループ学習(メンバー、役割、グループ形成について意識した実践)

2, 3日目を使った課題2のテーマは、保育の現場で教材として利用できる「電子紙芝居」教材の制作である。コミュニケーションタイプや過去経験した役割、担当したい役割などを、初日の最後にWebアンケート(googleドキュメントフォーム機能を利用)で取り出した。そのデータに基づいて多様なメンバー、つまり経験したことがある役割、担当したい役割、コミュニケーションタイプがばらばらとなるようにグループのメンバーを教員側で調整した。

このようなグループ分けをして、「グループのメンバーについて良く知り、互いの関係を深め信頼関係を築き、一人ひとりがグループの一員であることを自覚すること」、「グループの目標を明確にし、構成メンバー全員が目標を共有し、その目標に向けて自分の役割を認識すること」をねらいとしてグループを形成していくためのいくつかのパフォーマンスを行った。まずチーム内での自己紹介、次に二人ペアを組んで取材をしてからグループ内のメンバーにその人を紹介する他己紹介、さらにグループとしての結束と他グループとの競争意識を持つことをねらいとしてグループ紹介をさせた。グループ紹介の方法は自由であるが、紹介方法をグループで検討しやすいようにフォームを用意した。そこに、グループ名、グループ名の由来、グループの目標、一人ひとりの紹介、一人ひとりの役割などを記入させ、グループで3～5分程度のグループ紹介発表を行わせた。



図1 課題2におけるグループ紹介の様子

グループ内の役割については、役割の説明をしておきグループ紹介の検討時に、リーダー、司会、ファシリテーター、進捗管理、記録管理、学習報告、情報管理などの役割を決めさせた。

グループ活動は、電子紙芝居教材としてのテーマや構想を検討するため、ブレインストーミングやKJ法を使ってグループ討議し、さらに、企画書の作成、キャラクターの設計、シナリオ作り、作品や模擬授業の目標を設定するための評価表の作成、作品制作、模擬授業練習、模擬授業などである。制作のために、制作の流れ、制作方法、素材作り（音、画像）、評価方法について指導をした。なお、グループ討議のためのKJ法、ブレインストーミングについては、実践1の前に指導をしている。



図2 課題1, 2でのグループ討議の様子

## 2. 3 課題成果

### (1) 課題1の成果

各グループでテーマを検討し、さらにグループで調べる内容の分担を決め、ネットでの調査やプレゼン資料作りを行い、一つの資料に統合した。表3のテーマでグループ発表を行った。

### (2) 課題2の成果

グループでの役割に従って、グループ討議を進め、テーマや構想を検討し、企画書やキャラクター設計

などを行い、シナリオ作成を進めた。3日目の授業までの20日ほどの間に集まって制作や協議を進めたグループもあった。最終日は制作と模擬授業を行い、グループごとの相互評価を行った。評価項目はそのグループが設定したものである。模擬授業の様子は、学生の許可を得てYouTubeに掲載している。作品を表4に示す。



図3 課題2の電子紙芝居制作の様子



図4 課題2の模擬授業リハーサル

図5 課題2の電子紙芝居模擬授業の様子

表3 課題1の発表テーマと発表資料の一画面

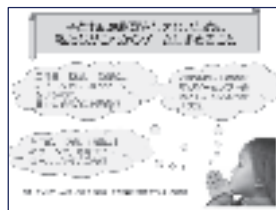
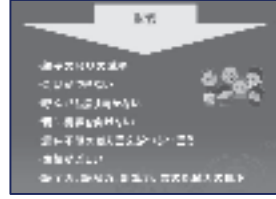


<ul style="list-style-type: none"> <li>・アニメからどのようなものを学ぶか</li> <li>・ぼくのいえにiPadがやってきた!</li> <li>・メディアの影響とその予防</li> <li>・ゲームとうまくつきあう方法</li> <li>・テレビと子ども</li> <li>・Wiiの新しい使い方</li> <li>・なぜ、NHKを子どもに見せるのか</li> <li>・DS幼児の脳トレ</li> <li>・★NHK教育テレビを子育てにどう使うか★</li> <li>・アニメの影響を受けたハッピーセット</li> <li>・幼児が好む芸人のギャグの傾向</li> <li>・ポケモンから学ぶ命の大切さ・人間関係</li> <li>・現在のヒーローアニメ～保育現場に与える影響～</li> <li>・子ども向け番組～子どもタレントが、子どもに与える影響～</li> <li>・子ども向けゲーム機器の可能性～現代背景とその可能性を踏まえて～</li> <li>・日本のアニメと海外アニメ～子どもに及ぼす影響・配慮～</li> </ul>	 
--	---

表4 電子紙芝居教材作品と作品の一場面

<ul style="list-style-type: none"> <li>・あの日の夕日～けんじの夏</li> <li>・おばあちゃん、だいすき</li> <li>・ecoものを大切にしよう</li> <li>・やあ!! ねねちゃん</li> <li>・あいさつしようずかな</li> <li>・うんち</li> <li>・やかんくんの夏休み</li> <li>・ぼくだって!!</li> <li>・そうなんだ!</li> <li>・どっちがいいかな?</li> <li>・東レンジャー</li> <li>・ちいさなちいさな</li> <li>・むぎわらぼうしのおくりもの</li> <li>・どうしていただきますっていうの?</li> <li>・見つけよう新しい星～ボクは地球に行くって決めたぞ～</li> <li>・リサイクルってなあに?～おもいもしないほうほうで～</li> </ul>	 
--	---

### 3. グループ学習の実践

#### 3. 1 調査概要

授業開始時、事前アンケートとして大学におけるグループ学習の状況を調査した<sup>7,8</sup>。ここでの調査と授業前後のグループ学習における役割像の変化を見るために、初日授業の終わり（課題1終了後）、授業後（課題2終了後）に受講学生にアンケート調査をした。最後の調査は、Webアンケート（googleドキュメントフォーム機能）で行い、授業時間で回答できない学生は、自宅等にて後日回答をした。

表5 アンケートの実施状況

事前アンケート	Aクラス(2010/07/30)	40名、	Bクラス(2010/08/04)	43名
課題1終了後アンケート	Aクラス(2010/07/30)	35名、	Bクラス(2010/08/04)	40名
課題2終了後アンケート	Aクラス(2010/08/25)	40名、	Bクラス(2010/08/26)	42名

#### 3. 2 実践後の役割に対する意識

##### (1) リーダー・ファシリテーター像の変化

グループ学習が効果的に進むためにグループを引っ張っていくリーダー、グループ討議や活動を目的に向かってうまく進むように調整をするファシリテーターに着目している。グループ学習におけるリーダー像、ファシリテーター像について、事前アンケートと授業後アンケートで尋ねた。前後でリーダー像の内容については大きな変化はないが、

実習後はリーダー像を多くの言葉で表現できるようになっている。ファシリテーターについては、事前アンケートではほとんどの学生がコメントできておらず、イメージも理解もない状態であった。授業後は多くの言葉で表現でき、ファシリテーター像のイメージができていた。一般にファシリテーターの認知度が低い状況であるが、授業によって理解が大いに深まったと言える。

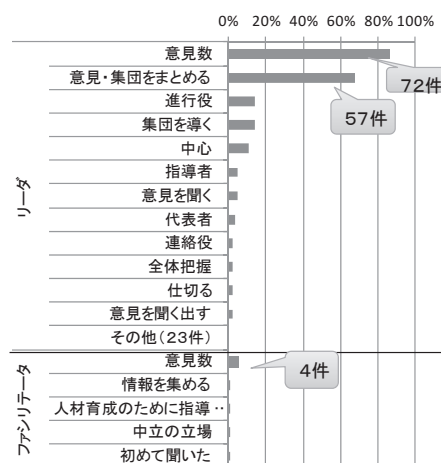


図6 授業前のリーダー、ファシリテーター像

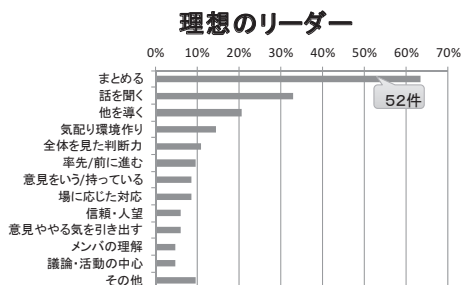


図7 授業後の理想のリーダー像

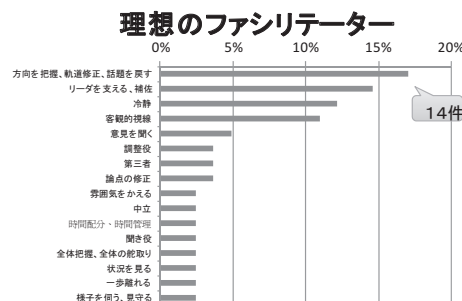


図8 授業後のファシリテーター像

##### (2) 必要と考える役割

授業終了後に、グループ活動が必要であったと考える役割は、リーダー、記録、ファシリテーターが特に多く6割を超えている。当初、ファシリテーターの理解がなかった学生達であるが、授業終了後は、

グループ学習の体験から必要であると理解したようである。自由意見では、ブレインストーミングがグループ討議で何かを作り出そうとしたときの発想を導く手法として多くの学生の共感を得ていることがわかる。ブレインストーミングでは、司会と記録が役割として必要となる。その司会の役割は、リーダーというよりもファシリテーターの役割であるが、ブレインストーミングを意識しその有効性を感じることによって、ファシリテーターの必要性を多くの学生が感じたのではないかと考える。

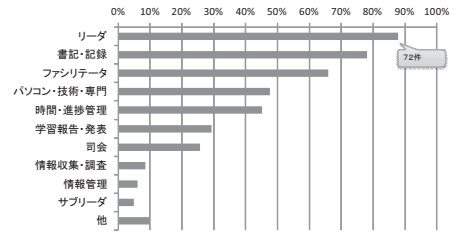


図9 授業後に必要と考える役割

### (3) 役割の難しさ

多くの学生が、担当した役割を果たせたと回答している。その中で、リーダー、ファシリテーター、情報技術で役割を十分果たすことができなかったという回答があった。ファシリテーターの場合、その理由

表6 役割達成度の自己評価

役割	自己評価				総計
	はい	ややはい	ややいいえ	いいえ	
記録管理	11	5			16
情報技術	10	3	1	1	15
学習報告	8	4			12
リーダー・司会	7	6	3		16
ファシリテータ	5	7	2	1	15
進捗管理	2				2
その他 (シナリオ、色塗り、ナレータ等)	5	1			6
総計	48	26	6	2	82

**ファシリテータ**

- ・話がそれたときにもどせなかったから。
- ・特にファシリテータとして役割を果たせなかったので。
- ・自分がファシリテータという役割のことを理解しきれてなかった

**リーダー**

- ・あんまり、リーダーの仕事ってできてなかった気がする。
- ・みんなに押し回してもらって動いていた感じがする。
- ・リーダーという仕事はなかなか普段やらないポジションなので、まとめ役とはどのように進めればいいのか試行錯誤の中で行っていました。

**情報技術**

- ・パワーポイント以外の使い方が全く分からなくてあまり役に立たなかった
- ・パソコンにあまり詳しくない

は「話を戻せなかった」「ファシリテーターの役割が理解できていない」であった。これはファシリテーターの役割について理解があるからこそその回答である。体験はおろかファシリテーターという言葉さえ知らなかった学生達に、グループ学習を効果的に進めるためのファシリテーターを実践させることは容易でないことが伺える。

## 3. 3 グループ学習の比較

### (1) 主体的な活動状況

課題1の終了後と課題2の終了後に、それぞれの学習活動に対してどれだけ主体的に関われたかを尋ねた。「積極的に発言した」「責任をもって取り組んだ」「グループに貢献できた」という観点で、いずれも、課題1の活動に比べ課題2の活動の方が良い結果となっている。

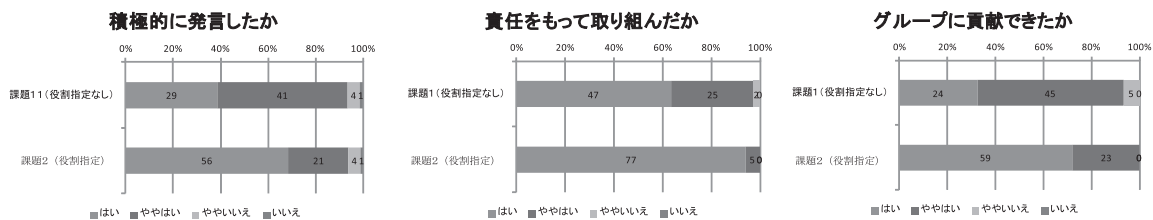


図10 主体的な活動状況

### (2) 授業で得られたこと

各課題後のアンケートで、課題活動によって得られたことは何かを自由記述で尋ねた。キーワードを

拾ってグラフ化したのが図 11 である。どちらもグループ学習に関する記述が多く、グループワークにおけるコミュニケーションに関するもの、課題を進めていくための技法に関するものが多くあった。事前調査の大学で受けてきたグループ学習で得られたものについても同様の傾向であった<sup>7,8</sup>。

課題のテーマや授業内容について深めたという回答は、課題 1 では、「子どもたちを取り巻くメディアへの関心」が 1 名のみで、課題 2 では、「子どもの視点に立った作品作り」が 12 名（グラフの枠内）であった。課題 2 の実践がグループ作りや役割設定などを意識したグループワークの取り組みであったためか、チームワークやグループ内での役割に関する記述が課題 2 の方に多くあった。若干ではあるが、課題 2 の方が、課題のテーマに興味関心を持ち学習が深められたと考えることができる。

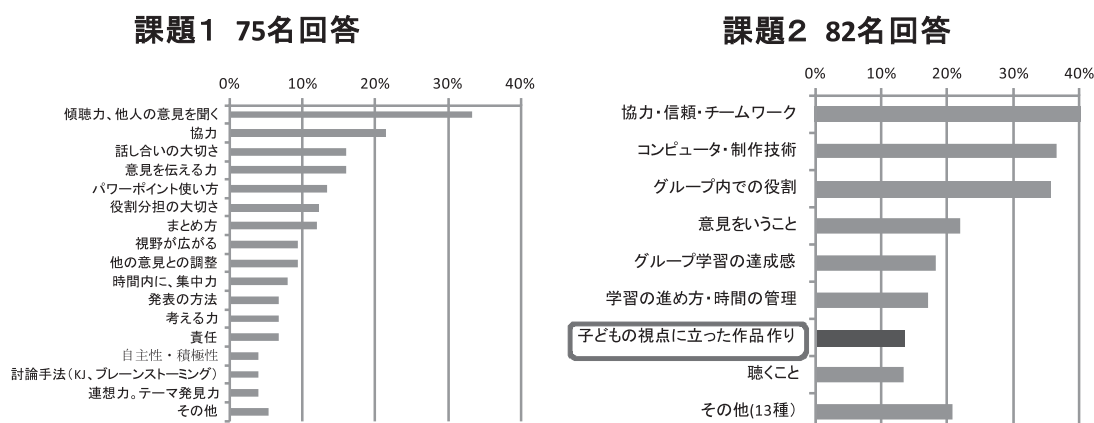


図 1 1 授業で得られたこと

### (3) グループワークの違い

授業最後のアンケートで、課題 1、課題 2 のグループワークの違いを尋ねた。2 回目の方を良いという意見が多くあった。その理由は、図 12 の通りである。「2 回目の時間が長かった」「2 回目でグループワークに慣れた」という理由は否定できないが、「役割を指定した」「多様なメンバーが揃った」などの理由が多く挙がっている。役割指定やグループ分けの方法が良いと多くの学生が感じている。メンバーを多様化し役割を明確にしたことでグループ学習に良い影響をあげたことが示されたと考える。

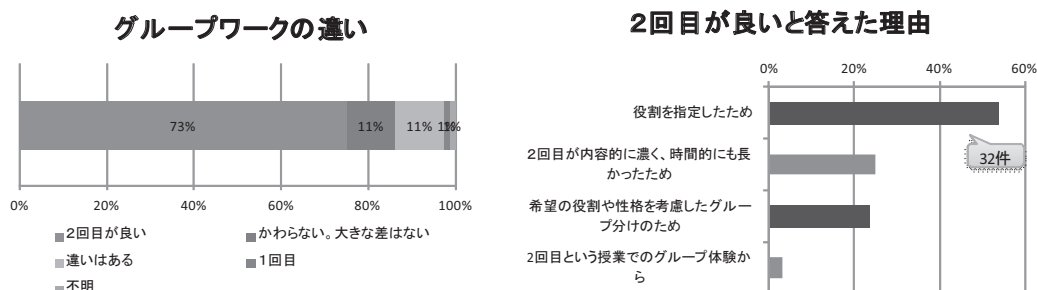


図 1 2 課題 1、課題 2 のグループワークの違い



課題1の「調査する課題」と課題2の「作品を創造する課題」では、課題が完成した時の達成感が違う点は確かにあるが、グループ形成に配慮したことは大きいと感じている。今回の課題2を進めるにあたって他己紹介やグループ紹介のパフォーマンスをなぜさせたか、グループ形成に配慮したことの意味に学生は気づいていないかもしれないがこの点も有効に働いたと感じている。図11の課題2で得られたもののトップがチームワークであった。グループ（仲間）や課題遂行に対する責任感が生まれ、目標を共有し、普段よりも自分を追い込んでいたのではないかと思う。それだけに完成し模擬授業をやり終えたときの達成感は大きなものがあつたのではないかと思う。「今までのグループ学習で一番いい」という授業評価アンケートのコメントがそれを物語っている。

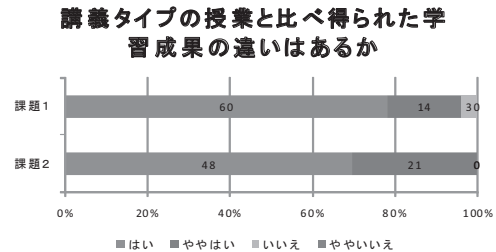


図13 成果の違いがあるか

#### (4) 従来型授業（講義タイプ）との成果の違い

課題1、課題2の終了後に、従来型授業（講義タイプ）との成果の違いを尋ねた。自由記述を読み取り、理由をいくつかに分類した。両課題ともに、従来型授業との成果に違いを感じている。課題1では、調査を手分けしていることから視野の広がりが高いために高い結果となった。学ぶ姿勢や意欲・態度、知識の深まり、考える力がつきたなどの、グループワークを取り入れるねらいが高くなっていることも確認できた。課題2では、学びの姿勢や意欲・態度、考える力、知識の深まりは、課題1と比べてさらに高くなっている。

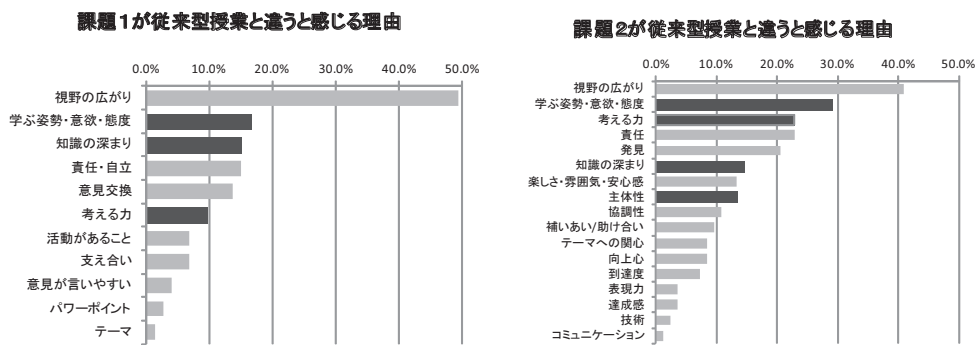


図14 従来型授業と違うと感じる理由

#### (5) 課題2を終えての意見

授業後アンケートで多くの意見や感想を学生から得ることができた。その中でグループ学習の進め方に関する意見の中から今回の実践の趣旨に関わるものの一部を表7に取り上げた。役割分担をしっかりとすることの重要性を理解し、一人ひとりが役割を認識することでグループ内での責任感を持っていること、そのためグループへの貢献度が高くなっていること、それができてグループ全員が参加できたという実感があつたこと、そしてグループの結束状況が生まれてきたことがわかる。そのために、役割分担、

グループメンバーの決め方の重要性に言及している。また、普段発言しない人も発言している状況があったことやそれを実現するツールとなったグループ討議におけるブレインストーミングの効用などにも触れていた。

表7 授業後の学生の意見・感想

<p>①役割分担の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーなどの役割分担がしっかりとしていたため、スムーズに進行することが出来たと思う。</li> <li>・個人個人が自分の役割をしっかりと認識したらより協力できる。</li> <li>・きちんと役割分担もされて、グループ全員が参加できていた</li> <li>・きちんと役割分担をしていくと、普段あまり発言をしないような人も参加するようになるのかなと感じた。</li> </ul> <p>②グループ作りの効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの特性があまり被らず、均等に集まったことで、うまくまとまり意見も全員述べる事が出来た。</li> <li>・自分は周りの対してどのように尽くしたいのか(どれくらいの貢献度を持って活動に臨んでいるのか)を考えることができた</li> </ul> <p>③討論手法の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KJ法・ブレインストーミングを初めて体験、意見を出しやすい</li> </ul>
--

#### 4. 考察

グループ学習が多くの授業で取り入れられており、グループによる成果発表があることで学生の達成感が高まる。しかしながら、授業の進め方、教員のあり方、個人評価、グループ作りには改善の余地がある。グループ学習で身についたと学生が考えるのは、グループコミュニケーションとグループ学習技法であり、学習を深める点という点で高くない。課題は、グループ学習をいかにコーディネートするかであり、学習手法ではなく学んでいる内容をいかに深めさせるかである。そのための授業の進め方・教員の指導のあり方に課題がある。その解決策として、グループ作りに今回は着目し、2つの種類のグループ学習を行い、学生のアンケートから次の示唆をえることができた。

##### (1) グループメンバーの構成方法

多様なメンバーが参加することで、グループ学習が活発化する。今回はコミュニケーションタイプ、過去の役割経験、やりたい役割を事前に聞き、それをもとにばらばらになるようにグループ分けをした。

##### (2) グループ形成

グループ内の信頼関係とグループの目標を一つに定めるために、互いを知る活動、自分が所属するグループでの一体感を高めグループとしての目標を明確にする活動を本来の課題をする前に行った。それは、他のグループと自分のグループを意識することで、仲間意識が生まれ、競争的な原理も働き、学習グループの一体感を高めることが、学習効果に良い影響を与えた。

##### (3) 役割について

具体的な役割を分担させ、グループ内での自分の果たすべき役割を明確にすることが、グループに対する参加意識と責任感を与え、結果としてグループへの貢献度が高まり、グループとしての学習成果が高まる、それが個人の学習成果につながる。

#### 5. まとめ

多様なメンバーでグループを構成し、役割を意識させ、さらにグループ形成を大事にしてグループ作りを進めていくことが、グループ学習の活動を活発化させ、個々の学生の学習成果を向上させることが

示唆された。これを踏まえ、次は、ファシリテーターの働きに焦点を当てたいと考えている。主体的に学習を進めながら、授業テーマを深めていくために、グループ学習をファシリテートしていく役割が重要と考え、その役割を生かした学習プログラムの開発を目指す。今回の調査でもファシリテーターについては知らない学生が多くあった。初めて体験するファシリテーターという役割を実践しながらグループ全体の学習活動が深めさせるには、どうすれば良いか検討を進めたいと考えている。

今年度はファシリテーターを意識したグループ学習を授業で進めた。そして、ファシリテーターのあるなしによるグループ学習の成果の違いを検証するためデータを整理しているところである。

そして、今後は、①ファシリテーターが実質的に機能するための指導をどうしていくか、②今回の実践では確認できていない個々の学生への評価をどうしていくか、という2点の課題の検討を進めていきたいと考えている。

なお、本研究は、平成22-24年度 科学研究費補助金（基盤研究（C））「ファシリテーターの育成を通じた教育力向上プログラムの開発」（課題番号 22531035）による。

## 参考文献

- (1)白井靖敏、鷺尾敦、下村勉、「学習者参加型授業を促進する教員の学習支援スキル育成カリキュラムの開発」平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（C））報告、2009
- (2)白井靖敏、鷺尾敦、下村勉、「学習支援スキル」育成を目指した教員研修（1）～「総合的な学習の時間」コーディネーター養成講座を通して～、日本教育工学会第24回全国大会、論文集 pp.545-546、2008
- (3)鷺尾敦、白井靖敏、下村勉、「学習支援スキル」育成を目指した教員研修（2）～「総合的な学習の時間」コーディネーター養成講座におけるアンケート調査結果～、日本教育工学会第24回全国大会、講演論文集 pp.547-548、2008
- (4)鷺尾敦、白井靖敏、下村勉、体験型教員研修における教員の意識変化「総合的な学習の時間」コーディネーター養成講座におけるアンケート調査結果から得たもの、日本教育工学会第25回全国大会講演論文集、pp.303-304、2009
- (5)白井靖敏、鷺尾敦、下村勉、体験型教員研修における諸課題、日本教育工学会第25回全国大会講演論文集、pp.305-306、2009
- (6)白井靖敏、鷺尾敦、下村勉、グループ学習の現状とファシリテーターの役割、名古屋女子大学紀要、2012
- (7)鷺尾敦、白井靖敏、下村勉、高等教育におけるグループ学習を深めるために（1）アンケート調査結果からの考察、日本教育工学会第27回全国大会講演論文集、pp. 541-542、2011
- (8)白井靖敏、鷺尾敦、下村勉、高等教育におけるグループ学習を深めるために（2）リーダーとファシリテーターの役割、日本教育工学会第27回全国大会講演論文集、pp.275-276、2011
- (9)望月紫帆、西之園晴夫、宮田仁、「質的分析法によるチーム学習と個人学習を統合した学習の研究Ⅳ」、日本教育工学会第20回全国大会講演論文集、pp.1019-20、2004
- (10)望月紫帆、西之園晴夫、宮田仁、「多様な学生によるチーム学習と個人学習とを統合した学習の研究Ⅱ」、日

本教育情報学会第21回年会、pp.200-201、2005

(11)西之園晴夫、学習ガイドブック教育の技術と方法、ミネルヴァ書房、2007

(12)平田義隆、中等教育における強調自律学習による授業改善、Computer&Education Vol.25、pp.35-40、2008